

RP EQ



ユーザーガイド

Powered by RPCX

はじめに

今日のプラグインエフェクトの世界では、数え切れないほどの EQ プラグインが出回っていますが、なぜ種類が多いのでしょうか？ 答えは、単純にそのサウンドの違いにあります。Rob Papen は、EQ プラグインに特別な何かを付加することができることを確信していました。

RP-EQ を開くと、市場に溢れている他のイコライザーとは、一線を画す製品であることに気付くことでしょう。独自の要素は、イコライザーのコア部分に追加されています。ツールボックスには、現代の EDM / ダンスミュージックで多用されているモノ / ステレオスプリットフィルターが含まれています。Air セクションは、マスターチャンネルにおいて素晴らしい効果を生み出し、お馴染みの XY パッドは、音楽的な RP-EQ にダイナミックで創造的なエッジを追加します。

RP-EQ には、有名 DJ やプロデューサーたちによってプログラムされた、多くの素晴らしいプリセットが付属されており、ユーザーのインスピレーションを刺激することでしょう。

Rob Papen と RPCX チーム。2015 年 9 月

インストール

RP-EQ を使用するための、インストールについては、パッケージ付属のガイドを参照してください。

操作

RP-EQ ではノブ、スイッチおよびドロップダウン・メニューを使用して、パラメーターを調整します。通常、クリックやドラッグして、これらのパラメーターを操作します。パラメーターを移動すると、対応するパラメーターの名前と値が、プラグインのパネル上部の読み出しスクリーンに表示されます。

シフトキーを押したままマウスを動かした場合には、正確な微調整を行うことができます。パラメーターをデフォルト設定にリセットするには、ダブルクリックするか、Control キーを押しながらクリックします。

RP-EQ には、3 種類のボタンがあります。

オン／オフボタン	マウスクリックでオンとオフを切り替えます。
ラジオボタン	事前に定義された、いくつかの設定の中から、お好みのものを一つ選択します。
メニューボタン	メニューは厳密にはボタンではありませんが、実質的にラジオボタンと同様に動作します。メニューボタンをクリックすると、すべての選択可能な値を表示し、もう一度クリックすると、値を選択することができます。

パラメーターを右クリック (Mac では、Control キーを押しながらクリック) すると、MIDI/コントロールメニューが開きます。このメニューには、パラメーター名と現在の値、どの MIDI コントローラーがパラメーターにリンク (ラッチ) されているが表示されます。そして、それは以下の中から選択することができます。

Set to default	パラメーターをデフォルト値に設定します。
Set to minimum	パラメーターを最小値に設定します。
Set to maximum	パラメーターを最大値に設定します。
Set to mid	パラメーターを中間値に設定します。
Set to random	パラメーターにランダム値を設定します。
Increase	テキストフィールドでパラメータ値を 1% 増加します。
Decrease	パラメータ値を 1% 減少します。
Set value	テキストフィールドに直接パラメーター値を入力します。
Latch to midi	受信した MIDI コントローラーと RP-EQ のパラメーターを関連付けします。

例えば、外部の MIDI エクスプレッションコントローラーにボリュームをラッチしたい場合、ボリュームノブを右クリックして、ポップアップメニューから、Latch to Midi を選択します。次に、MIDI エクスプレッションコントローラーを動かすと、これより、エクスプレッションコントローラーを使って RP-EQ ボリュームノブを操作することができるようになります。もちろん、RP-EQ のスクリーンで直接ボリュームノブを操作することもできます。

これらのラッチ MIDI コントローラーはグローバルに動作し、ホスト上のすべてのプリセットと有効な RP-EQ で動作します。

<i>Set midi</i>	入力ボックスが表示され、MIDI コントローラーの数値を直接入力することができます。
<i>Unlatch midi</i>	任意の MIDI コントローラーからの、特定の RP-EQ パラメーターへのリンクをクリアします。
<i>Clear midi</i>	ラッチされた MIDI すべての設定をクリアします。

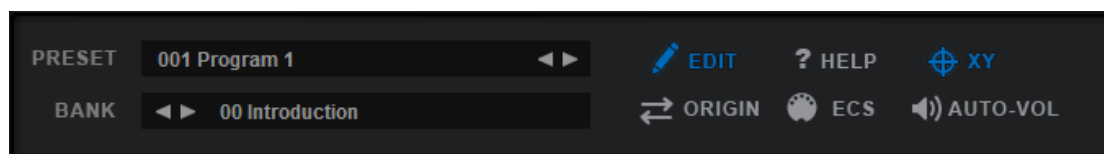
注：プリセットセクションでは、全ての MIDI(ラッチ)コントローラーのセットアップを、ハードディスクに保存、読み込みすることができます。この機能は、ECS(External Controller Setup=外部コントローラー設定)と呼ばれています。この機能の説明については、本マニュアルの ECS の章を参照してください。

コンピューターのキーボードを使用してプリセットとバンクを選択することができます。この機能の有効/無効は、RP-EQ のバックパネルで設定することができます。バックパネルにアクセスするには、RP-EQ のロゴをクリックしてください。

注：マウスホイールのスクロールアップ/ダウンでプリセットをナビゲートすることができます。

上矢印キー	前のプリセットへ。
下矢印キー	次のプリセットへ。
右矢印キー	プリセット番号を 32 増加します。(バンクマネージャーで有用)
左矢印キー	プリセット番号を 32 減少します。(バンクマネージャーで有用)
Page Down キー	次の RP-EQ バンクへ移動
Page Up キー	前の RP-EQ バンクへ移動

バンク、プリセット、および一般的な操作



バンク、プリセットバーは、RP-EQ ウィンドウ上部に設置されています。ここでは、プリセットやバンクを選択することができ、プリセットのコレクションやバンクを管理する機能を備えています。

プリセットを選択して、有効にするための方法は 2 つあります：プリセットを一つずつ順番に切り替えるには、左／右のボタンをクリックします。右のボタンはバンク内の次のプリセットを、左のボタンはバンク内の前のプリセットを選択します。もう一つの方法は、ドロップダウンメニューから直接プリセットを選択します。メニューを開くには、プリセットの名前をクリックする必要があります。メニューが開いている間に、プリセット名の階層をナビゲートし、読み込みたいプリセットを選択します。

バンクの切り替えも、同様に行うことができます。左右のボタンを使うと、バンクのコレクションを一つずつ順番にナビゲートできます。バンク名をクリックすると利用可能なバンクが開き、次に読み込みたいバンクをクリックします。

Bank and Preset Management (バンクとプリセットの管理)

クイックブラウザでは利用可能なすべてのバンクとそのプリセットを表示します。プリセットをクリックすると、プリセットと対応するバンクが読み込まれます。

Recently Browsed (最近ブラウザしたもの)

ここでは、最近使用したすべてのプリセットリストが表示されます。エントリーをクリックすると、プリセットを再読み込みします。Clear Recent をクリックすると、メニューからすべてのエントリーを削除します。

Favorites (お気に入り)

Favorites はプリセットメニューの一部で、お気に入りプリセットとして選択したプリセットの一覧が表示されます。エントリーをクリックすると、プリセットをロードします。Add Current to Favorites をクリックすると、お気に入りにプリセットを追加することができます。Remove Current from Favorites を選択すると、お気に入りリストから、現在のプリセットを削除します。また、Clear Favorites を選択した場合には、お気に入りリストからすべてのエントリーを削除します。

お気に入りリストはコンピューターのハードディスクに保存されているので、次回 RP-EQ を使用する場合や、プロジェクト内で複数の RP-EQ プラグインを立ち上げた場合にも、リストを利用することができます。

バンク

バンクセクションでは、バンクスクリーンをクリックしてメニューから選択するか、スクリーン上の矢印ボタンを使用して利用可能なバンクをナビゲートして、バンクを選択することができます。すべての RP-EQ のバンクは、コンピューター上の RP-EQ/Banks フォルダに保存されています。自分の RP-EQ のバンクについては、自分で作成したフォルダに保存することをお奨めします。

バンクの保存と読み込みには、このセクションのファイル機能を使用する必要があります。

注:バンク内のプリセットを変更した場合、変更されたプリセットを維持するためには、バンクを保存する必要があります。オリジナルのプリセットバンクを維持するためには、必ず新しい名前でバンクを保存してください。

Edit / Origin (編集 / オリジナル)

プリセットの編集(すなわち RP-EQ のプリセットを変更)を始めるとすぐに、Edit ボタンが点灯します。Orig ボタンをクリックすると、元の設定にプリセットを戻します(あなたが編集した設定も、もちろん利用できます!)。編集したプリセットに戻るには、Edit ボタンをクリックします。これにより、あなたが以前に行ったすべての変更が反映されます。この機能を使用すると、編集されたものと元のプリセットの違いやパラメーターの変更による影響を比較することができます。

注:バンクのプリセットを変更した場合には、変更したプリセットを維持するためにバンクを保存する必要があります。オリジナルのプリセットバンクを維持するためには、必ず新しい名前でバンクを保存してください。

ダイレクトアクセスボタン

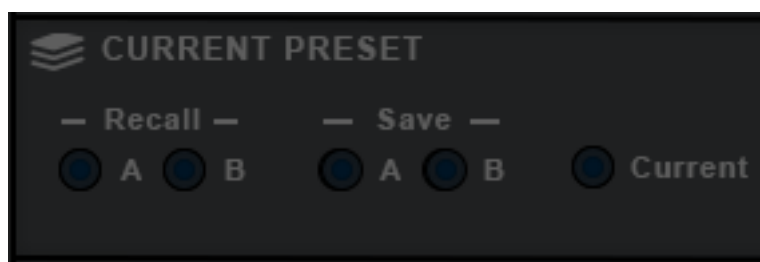
プリセットとグローバルセクションの中心には、RP-EQ の様々な機能に直接アクセスできる 5 つのボタンがあります。

XY	クリックすると、XY スクリーンを開きます
Auto Vol	クリックすると、オートボリュームリミッターを有効にします
ECS	クリックすると、ECS メニューを開きます
Help	クリックすると、RP-EQ マニュアルを開きます

RP-EQ ロゴ

RP-EQ ロゴのクリックすると、バックパネルが表示されます。バックパネルでは、グローバル設定と、アクセス頻度の低いパラメーターの設定を行います。

プリセット・バリエーション



RP-EQ の各プリセットには、A と B、2 つのスロットがあり、2 つのバリエーションを保存することができます。A と B のバリエーションは、編集時にそれぞれのバリエーションを比較するのに便利です。現在の設定は Current ボタンでいつでも呼び出すことができます。

Save A と B ボタンをクリックすると、各スロットに有効な設定を保存します。Recall A / B をクリックすると、スロットに保存された設定が読み込まれます。

注: 新しいプリセットを選択した場合、その現在の設定が有効となりますが、A と B のスロットは、常にプリセットの一部として保存されており、いつでも呼び出すことができます。

Volume (ボリューム)



ボリュームセクションでは、RP-EQ 全体の音量を設定するだけでなく、さらにトリッキーな機能を搭載しています。

Bypass (バイパス)

バイパススイッチはボリュームセクションを信号の流れから外します。バイパスが有効である場合、オーディオ信号は影響を受けません。

Volume (ボリューム)

ボリュームノブでは、プリセットの音量を設定します。ボリュームの損失やブーストを補正するために使用されます。

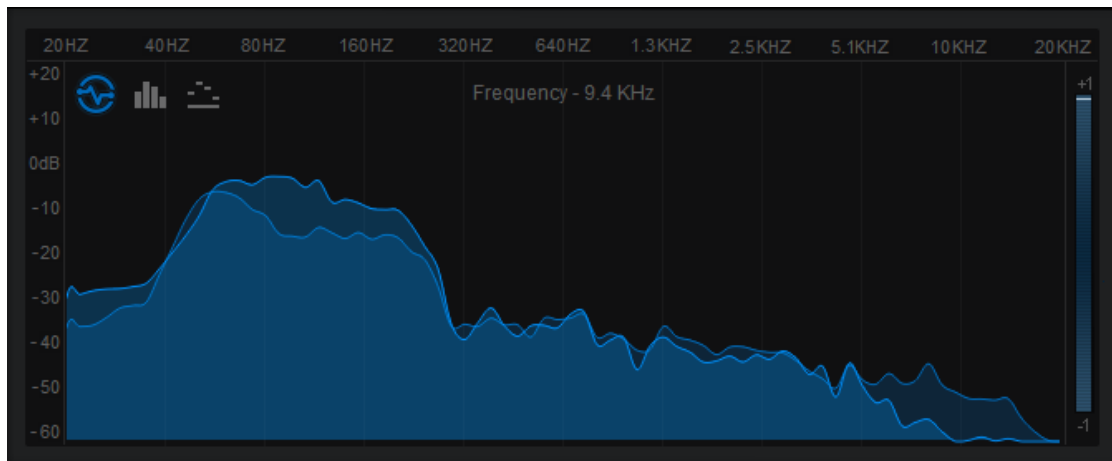
Auto Volume (オートボリューム)

オートボリュームは、プリセットセクションのスイッチをオンにした場合に有効になります。オートボリューム機能は、クリッピングによる潜在的な歪みを予測して、オーディオ信号への影響を防ぐためのリミッタータイプの機能です。オーディオレベルの極端なピークが発生する量を減らすことによってこれを実現します。オートボリュームが有効である場合、ボリュームダイヤルの隣の赤い LED が、クリッピング歪みの存在を知らせてくれます。

オートボリュームは広い意味でのリミッターではないことに注意してください。これは、放置するとクリッピングの歪みをもたらす極端なピークレベルが発生する場合のみ有効となります。

オートボリュームの有効時には、わずかに全体のボリューム低下が発生することがあります。EQ 設定とソースの音量を考慮したボリューム調整を行うことをお勧めします。また、A と B のスロットを使用すると良いでしょう。EQ でプリセットの全体的なキャラクターを設定し、A と B のスロットにプリセットの 2 つのボリュームに適応したバリエーションをそれぞれ保存します。

スペクトログラム



スペクトログラムは、時間と共に変化するサウンドの周波数スペクトルを視覚的に表現したものです。RP-EQ のスペクトログラムでは、FFT スペクトログラム、30 バンド(1/3 オクターブ)パー・スペクトログラム、または 30 バンド(1/3 オクターブ)シングルライン・スペクトログラムとして、入力および出力信号を表示します。スペクトログラムの左側のアイコンでは、それぞれ FFT スペクトログラム、パー・スペクトログラム、単線スペクトログラムの表示モードを切り替えます。

オン/オフ

スペクトログラムアイコンでオンとオフを切り替えます。リアルタイムでスペクトログラム表示を行うと、比較的多くの CPU パワーを消費します。ただし、RP-EQ のユーザーインターフェイスを閉じると、スペクトログラムの分析は停止されます。これにより CPU サイクルを節約し、システム全体の負荷を低減することができます。

ヒント：プロジェクト内の複数のトラック上において RP-EQ を複数使用している場合、調整の必要のないトラックのユーザーインターフェイスパネルを閉じることをお勧めしています。このアプローチは、ワークステーションに必要な CPU パワーを効率よく管理するためのお手伝いをします。



Mode (モード)

モードの設定では、左チャンネル、右チャンネル、またはその両チャンネルの可視化表示を切り替えます。また、このオプションでは、Mid/Side(ミッド/サイド)信号を選択することができます。その場合、上部スペクトログラムにはミッド信号を、下部スペクトログラムには、サイド信号が表示されます。ミッド/サイドモードの詳細については、EQ セクションの Mid/Side の項を参照してください。

Input / Output / Both(入力／出力／両方)

スペクトログラムは、さまざまなオーディオチェーンの音声信号を表示するよう構成することができます。入力信号(プリEQ)、出力信号(ポストEQ)、またはその両方から表示内容を選択することができます。

スペクトログラム表示は、モノラル／ステレオスプリットフィルターの設定の状態に適応されます。モノラル／ステレオフィルターが有効で、モノラル／ステレオが可視化されている場合は、モノ信号として現れる周波数は、グレー色の背景に表示されます。

スペクトログラムの右側には、左右のチャンネル間の位相相関のインジケーターがあります。+1という値は、チャンネル間の完璧な位相同期を示しています。また、-1という値は、2つのチャンネルが逆位相であることを意味します。

Freeze(フリーズ)

フリーズ機能は、スペクトログラムの現在の出力を、再び解放されるまで、保持します。特定の時点における周波数スペクトルを確認、解析するためにフリーズ機能を使用することができます。

Boost(ブースト)

ブースト機能は、スペクトログラムへの供給音を増幅します。ただしこの機能は、可視化エンジンにのみ適用され、オーディオ出力自体が大きくなることはありません。この機能は、音楽上の繊細な箇所において、詳細なスペクトルを確認したい場合に使用します。

Hold / Release(ホールド／リリース)

バー／ラインモードでは、スペクトル全体の最大値(ピークレベル)が連続線を形成します。ホールド機能では、それが更新されるまでの表示時間の間隔を設定します。リリースでは、スペクトルの信号レベルの低下が始まった後に、平らな線に落下するまでにかかる時間を設定します。

FFT スペクトログラムモードでは、リリース値は、リフレッシュレートを低下させ、スペクトログラムの減速として現れます。スペクトログラムの動作がぎこちないと感じる場合には、リリースの設定を下げてください。

ECS (外部 MIDI コントロール)

RP-EQ では、外部 MIDI メッセージに応答し、ダイナミックにサウンドパラメーターを変化させます。RP-EQ をコントロールするための、外部 MIDI メッセージの割り当ては、ECS で定義されます。ECS は、外部コントローラーセットアップの略です。これには、RP-EQ パラメーターのリアルタイム操作の対象とされる MIDI コントローラーすべての割り当てが含まれています。右ボタン (Mac 上では、コントロールクリック) メニューを使用するか、Latch to MIDI を選択し、それぞれの個別の MIDI コントローラーの割り当てを設定します。また、同様に特定の MIDI コントロールの割り当てを外したり、そのすべてをクリアしたりすることができます。ECS ボタンを押すと、全ての外部 MIDI コントローラー設定の読み込み、保存を行うことができます。一度設定されると、すべてのプリセット、およびお使いの DAW で使用されているすべての RP-EQ 上で共有されます。

<i>Load ECS</i>	ECS のセットアップを保持しているフォルダを開きます。RP-EQ のインストーラーは、すべての .ECS ファイルを格納している ECS というフォルダを作成しています。
<i>Save ECS</i>	作成した MIDI セットアップを保存し、他の曲でそれを使用するための機能を提供します。設定は、.ECS ファイルとして保存されます。
<i>Reset all Midi</i>	RP-EQ のすべての MIDI 設定をクリアします。最初から開始し直したい場合に便利です。

イコライザー



RP-EQ の心臓部は、8 バンドのパラメトリック・ピーク・イコライザー(EQ)です。イコライザーの設定はグラフィックスクリーンで直接行うか、グラフィックスクリーン下の専用のパラメーターを介して調節することができます。またイコライザーは、ミッド／サイドモードで動作することができます。(下記を参照)

注: 微調整をする場合は、コンピューターの Shift キーを押したままマウスを移動します。この方法では、最も細かい単位でのパラメーター編集を提供します。

デフォルトでは、周波数帯は中心周波数によって識別されますが、場合によっては、帯域を音符名または MIDI ノート番号で識別した方が便利な場合があります。

いくつかのパラメーターには、ロックスイッチが付いています。グラフィック編集との組み合わせで、このスイッチを使用すると、グラフィックスクリーンで調整を行っている間の、選択パラメーターの意図しない編集を防ぐことができます。

EQ Off / On / Mid / Side (EQ オフ / オン / ミッド / サイド)

EQ スクリーンの EQ アイコンは、イコライザーのオンとオフ、ミッド／サイドモードの切り替えを行います。(以下のミッド／サイドセクションを参照してください。)

ミッド／サイドモードでは、バンド 1～4 は、それぞれ Band 1m～Band 4m と表示され、これら 4 バンドは、ミッドシグナルの調整用であることを表しています。

ミッド／サイドモードでは、バンド 5～8 は、それぞれ Band 5s～Band 8s と表示され、これら 4 バンドは、サイドシグナルの調整用であることを表しています。

1-4 / 5-8

1-4 5-8 スイッチは、どちらのバンドの調整を行うかを選択します。

EQ Band On / Off (EQ バンド オン/オフ・アイコン)

左側のバンドアイコンは、それぞれ対応する EQ バンドのオンとオフを切り替えます。デフォルトでは、バンド 1~4 はオンに、一方バンド 5~8 はオフとなっています。多くのケースでは、4 バンドで十分であり、これにより CPU パワーを節約することができます。また、RP-EQ には独立したハイパス、ローパスフィルターセクションがあることも忘れないでください。

Band 1 to 8 Label(バンド 1~8 のラベル)

バンドのラベルをクリックすると、EQ Band メニューが開きます。Band メニューでは、選択した EQ バンドのクリア、コピー、ペースト、スワップ設定を行うことができます。

Visual(視覚)

視覚スイッチは、対応する周波数帯域の可視化のオンとオフを切り替えます。パネルで作業しているバンドのみに可視化スイッチを使用してください。

Solo(ソロ)

ソロ・スイッチは対応する周波数帯域のみのグラフィック表示を有効にします。

BW(帯域)

帯域パラメーターでは、バンドで設定した周波数の周辺範囲の広さ(スパン)を決定します。高い設定では、より一般的な調整向きの緩やかなカーブを作成するのに対し、低い設定では、非常に狭いピークまたはスパイクを正確に EQ 編集することができます。

BW Solo

BW Solo スイッチでは、1 つの周波数帯のみのイコライジングが有効となります。

Frequency / Note(周波数/ノート)

周波数/ノートスイッチはバンド周波数を特定して表示する方法を決定します。デフォルトでは周波数に設定されており、20Hz~20 kHz の範囲で指定します。ノートディスプレイでは、MIDI ノート番号やノート/オクターブによって、周波数帯域を識別します。

Frequency Lock(周波数ロック)

周波数ロックスイッチは、現在の値にバンドの周波数を固定します。グラフィックスクリーンでの編集時に、マウス操作によってゲインまたは帯域幅のみを調整したい場合に、このスイッチをオンにします。

Gain(ゲイン)

ゲインでは、特定の周波数帯域の削減または、ブースト量を決定します。特定の周波数範囲のボリュームパラメーターと考えると理解しやすいでしょう。

Gain Lock(ゲインロック)

ゲインロック・スイッチは、バンドゲインを現在値に固定します。グラフィックスクリーンでの編集時に、マウス操作によって周波数または帯域幅のみを調整したい場合に、このスイッチをオンにします。

Mid/Side Mode (ミッド/サイドモード)

ミッド/サイド処理は、Alan Blumlein によって 1934 年に開発された概念です。特許を取得したマイク技術を用いて、人間の耳にステレオイメージを知覚する(聞こえる)方法を再現するための概念が開発されました。このミッド/サイドの技術は、現在においても広くレコーディングにおいてステレオイメージを改善するための効果的な方法として使用されています。

ミッドセクションの周波数帯域のブーストを行うと、モノラル信号ソースのように、よりステレオイメージにおける中央の存在感が増します。一方、サイドセクションをブーストすると、ステレオイメージにおいて広がった成分がプッシュされます。また、逆の効果を狙う場合には、ミッド/サイドバンドを減衰するといいでしょ。

ミッド/サイドモードでは、周波数スペクトルのバンド 1~4 がミッドセクションを、バンド 5~8 がサイドセクションを表しています。ミッド、サイドの各セクションに異なる EQ 設定を行うと、ステレオイメージに変化を与えることができます。

Graphical EQ Screen (グラフィカル EQ スクリーン)

EQ の設定を変更するための最も直感的な方法は、イコライザーの曲線上の点を、目標位置にドラッグすることです。この方法では、1度の操作で周波数と、ゲイン、帯域幅を同時に調整することができます。

- 左右にドラッグすると、帯域の周波数を変更します
- 左右にドラッグすると、バンドゲインを変更します
- Control キーを押したままドラッグすると、帯域幅を変更します。また、マウスホイールを使用することによっても、同様の操作を行えます。

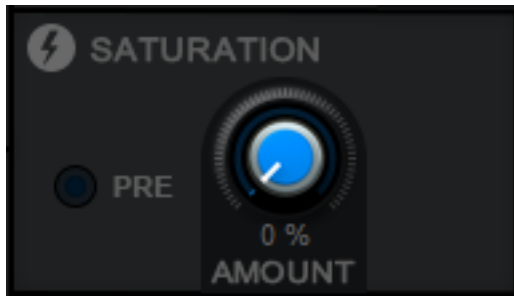
マウスを右クリックすると、以下に説明する EQ セクションのコマンドメニューを表示します。

EQ Commands (EQ コマンド)

EQ コマンドは、EQ アイコンの隣の EQ ラベルにあります。EQ コマンドは、以下のとおりです。

On	セクションを有効にします
Off	セクションの無効にします
Default	デフォルト値にセクションのパラメーターをリセットします
Copy	セクションのパラメーター値をコピーします
Paste	セクションのパラメーター値をペーストします
Undo	最後のコマンドを元に戻します。
Save Preset	このセクションの現在の設定をディスクに保存します。これらは、セクションプリセット¥ [セクション名] フォルダに保存されます。
Delete Presets	選択したプリセットを削除します
Presets	このセクションで使用可能なプリセットリストです。

Saturation (サチュレーション)



サチュレーションセクションでは、アナログテープ録音の効果に基づいたサチュレーション効果を、サウンドに適用し温かみを付加します。

サチュレーションの効果は非常に繊細です。低音成分では、サウンドが少しクリーミー(厚く)なり、多くの人々は、少し暖かいサウンドとしてこれを知覚します。サチュレーション効果をよりクリアに聞き分けるためには、高品質なオーディオセットアップが必要となります。

サチュレーションアイコンをクリックすると、このセクションのオンとオフを切り替えます。また、サチュレーションのラベルをクリックすると、サチュレーションコマンドメニューが開きます。

Pre (プリ)

サチュレーションセクションは EQ セクションの前または後に配置することができます。オーディオチェーン内における位置を前に変更するには、Pre ボタンを有効にします。

Amount (量)

このパラメーターではサチュレーション量を決定します。

Air(エア)



エアセクションは、広い帯域幅を持つ非常に高周波数のブースターとして機能するEQバンドです。サウンドに空気感を加えることができます。

これは、マスタリングチャンネルにおいて効果を発揮しますが、古いレコーディングを新しくフレッシュなものにする効果もあると言えるでしょう。

また、エアセクションをリードボーカルに適用した場合、ミックスの中で、ボーカルの存在感を少し増すことができるでしょう。最大量は6デシベルですが、多くの場合、小さな変化で、お望みの効果を得ることができるでしょう。

エアのアイコンをクリックすると、このセクションのオン、オフを切り替えることができます。エアラベルをクリックすると、エアコマンドメニューが表示されます。

Amount(量)

エア周波数帯のゲインまたはブースト量を設定します。

Frequency(周波数)

エアバンドの中心となる周波数を30kHz~40kHzの範囲で設定します。エアは広い帯域幅を持っています。中心周波数が通常の聴力範囲外であっても、対応する周波数帯域はその限りではありません。

ファイナルミックスのマスターバスや、マスタリングにおいては、40kHz設定が最適であると言えるでしょう。

ソロ楽器やボーカルの処理については、30kHzに近いところまで周波数を下げるとよいでしょう。

Filter(フィルター)



EQ セクションの次にはハイパス (HP) とローパス (LP) フィルターが続いています。

このフィルター部の典型的な使用例は、HP フィルターを 75Hz の設定で使用することにより、ゴロゴロとした制御不能な低音成分をフィルタリングすることです。フィルタースロープは、12dB/oct、24dB/oct のどちらかを選択可能であり、各フィルター共に、2 つのフィルタータイプを持っています。

LP フィルターは、多くのシンセサイザーに搭載されている古典的な機能です。私たちは、創造性の高いイコライジングを実現するために、RP-EQ にこの機能を追加しました。また、XY パッドと組み合わせることにより、ダイナミックでリズミカルなフィルター効果を生み出すことができます。

フィルターアイコンをクリックすると、このセクションのオン、オフを切り替えることができます。フィルターのラベルをクリックすると、フィルターコマンドメニューが表示されます。

Frequency / Resonance (周波数 / レゾナンス)

フィルターの主な 2 つのパラメーターは、カットオフ周波数とレゾナンスです。カットオフ周波数は、周波数成分がカットされる地点を決定します。レゾナンスパラメーターでは、カットオフ周波数の強調レベルを設定します。

XY Screen (XY スクリーン)



XY アイコンで、XY スクリーンを起動します。XY スクリーンが 2 つのプログラムの LFO として動作します。XY それぞれの移動で、複数の RP-EQ パラメーターの値を制御します。

XY の基礎 - Live (ライブ) / Record (レコード) / Replay (リプレイ)

Live モード: XY パッド内で青いドットをドラッグし、自由に移動します。ドラッグした XY の量に応じて値が適用されます。

Record モード: XY を Rec に切り替えて、パスを描画します。マウスのボタンを押し続けている間、全ての動きをパスとしてメモリ内に記録します。

Replay モード: Record モードでパスを記録後、Replay モードに変更し、ノートを演奏すると記録されたパスに従って XY の値が再生されます。ノートを演奏してパスの再生をトリガーする代わりに、パスをフリーランニングさせることや、MODE 隣のボタンをクリックして手動でトリガーすることもできます。

Mode (モード)

Note	X/Y パスの再生は、MIDI ノートによってトリガー、リトリガーされます。 注: RP-EQ はエフェクトプラグインなので、MIDI 情報を RP-EQ に接続する方法については、お使いの DAW のマニュアルを参照してください。
Free	お使いの DAW の再生を開始すると、XY パスはフリーランニングで動作します。ノートを演奏したときにも、パスはリセットされません。フリーモードでは、XY パスが自動的にループされます。
Button	モードスイッチの隣にあるボタンをクリックすることによってトリガーされ、パスが再生されます。

Loop (ループ)

このループパラメーターは、「Replay (リプレイ)」が選択されている場合のみ適用されます。

ループが On の場合、パスの最後に到達すると、緑のドットが先頭にジャンプし、移動を繰り返します。<> モードでは、XY パスはループしますが、辿ってきたパスに沿って前後に移動します。ループが Off の場合には、一方向に一度だけ移動します。

Sync To(同期)

デフォルトでは、XY パスは記録されたスピードで再生されます。しかし、Sync 機能を使うと、指定した時間枠内で XY パスを再生することができます。これは、拍や小節単位で指定することができます。パスタイミングは、Sync To で選択された値にスケールリングされます。

Point Quantization(ポイント量子化)

このパラメーターは、Replay が有効である場合にのみ適用されます。

パスは、一連の 128 のポイントとして保存されていますが、Point Quantization メニューを使用して保存ポイントの数を変更したい場合があるかもしれません。最小ポイント数は 4 点まで、パスを簡素化することができ、いつでも最大 128 ポイントに戻すことができます。(新たに編集しない限り、)元のポイントが復元されます。

Space Quantize(スペースクオンタイズ)

このパラメーターは、Replay が有効である場合にのみ適用されます。

スペースクオンタイズは、現在のパス内のすべてのポイントをグリッド線のセットに合わせます。Off 以外に設定すると、ポイントを最も近いグリッドポイントに合わせます。

Time Quantize(タイムクオンタイズ)

このパラメーターは、Replay が有効である場合にのみ適用されます。

時間クオンタイズは、量子化されたセグメントに動きをスプリットします。たとえば、すでにパスを持っている状態で¼にクオンタイズ時間を設定した場合、動きを 4 テンポベースのセグメントにスプリットします。

Smooth(スムーズ)

このパラメーターは、Replay が有効である場合にのみ適用されます。

スムーズ機能は、パスの急激な変化(たとえば、鋭い角などを)排除します。

Speed(速度)/速度制御/スピードソース

このパラメーターは、Replay が有効である場合にのみ適用されます。

RP-EQ では、設定した時間軸に同期することができるだけでなく、再生速度を調節することもできます。Speed ノブの調整で、再生速度を元の 1/16 から 16 倍のタイミングで変更することができます。Speed Control / Speed Source は、モジュレーションソースの典型的な範囲で、この速度変化を調節することができます。

注: RP-EQ はエフェクトプラグインなので、MIDI 情報を RP-EQ に接続する方法については、お使いの音楽プログラムのマニュアルを参照してください。

X / Y Mod Amount(X / Y 変調量)

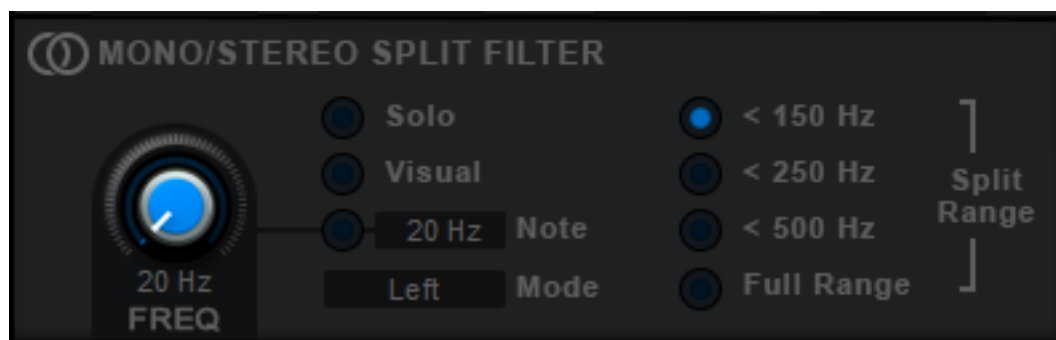
それぞれ X 位置と Y 位置は、モジュレーションソースとして使用でき、任意の変調先を割り当てることができます。

XY Menu (XY メニュー)

XY スクリーンを右クリックすると、以下のオプションと共に XY メニューが開きます。

Edit Position	記録されているパスを編集することができます
Reset to Position	ダイレクトモードで X/Y を中央の位置にリセットします
Set to circle, square etc.	円、正方形やその他のプリセット形状に X / Y のパスを設定します。
Reverse	X / Y パスを反転します
Flip Horizontally	X / Y パスを水平方向に反転します
Flip Vertically	X / Y パスを垂直方向に反転します
Rotate	設定した角度で X / Y パスを回転します
Snap to Grid	X / Y パスを所定のグリッドに合わせます
Smooth	X / Y パスから をなくし、鋭いエッジを排除します
Scale X & Y	XY 中点の周りの X / Y のパスを拡大 / 縮小します
Undo	最後のコマンドのを元に戻します
Copy	現在の X / Y のパスをコピーします
Paste	最後にコピーされた X / Y パスを貼り付けます
Clear	現在の X / Y パスをクリアします
Load	以前に保存された X / Y パスを読み込みます
Save	現在の X / Y のパスをディスクに保存します
Latch X To Midi	X 位置を、次に入力される MIDI コントローラーに関連付けます。 現在関連付けされている CC が表示されます。
Latch Y To Midi	Y 位置を、次に入力される MIDI コントローラーに関連付けます。 現在関連付けされている CC が表示されます。
Set X Midi CC	X 位置に関連付けされる MIDI CC を直接設定します
Set Y Midi CC	Y 位置に関連付けされる MIDI CC を直接設定します
Unlatch XY	X/Y に関連付けされた MIDI コントロールを開放します

Mono / Stereo (モノラル / ステレオ)



Mono / Stereo Split Filter (モノラル / ステレオ・スプリットフィルター) は、周波数に基づいて、モノラルとステレオにオーディオ信号をスプリットすることができます。一般的に、低周波数にはほとんど空間情報が含まれておらず、モノラル信号として認識されます。ステレオイメージの空間的配置は、より高い周波数によって提供されます。スプリットフィルターは、現代の音楽において、ミックスバスの構成またはマスタリングの素晴らしいツールであると言えるでしょう。

スプリットフィルターを通過した信号は、個別に処理することができる 2 つのパート (モノの低周波数成分とステレオの高周波数成分) から構成されます。

Mono / Stereo Split Filter アイコンをクリックすると、このセクションのオンとオフを切り替えることができます。モノラル / ステレオスプリットフィルターのラベルをクリックすると、セクションのコマンドメニューが開きます。

Frequency (周波数)

周波数パラメーターは、モノフィルターの周波数を設定します。設定した周波数以下の音はモノラル信号に変換されます。作業中の素材において、正確に適切なレベルを得るために、Split Range ボタンを使用して、このパラメーターの範囲を設定することができます。また、15 (D#-1) ~ 127 (G8) の MIDI ノートを使って周波数を設定することもできます。

Solo (ソロ)

ソロスイッチをオンにすると、変換されたモノ信号のみを通過します。

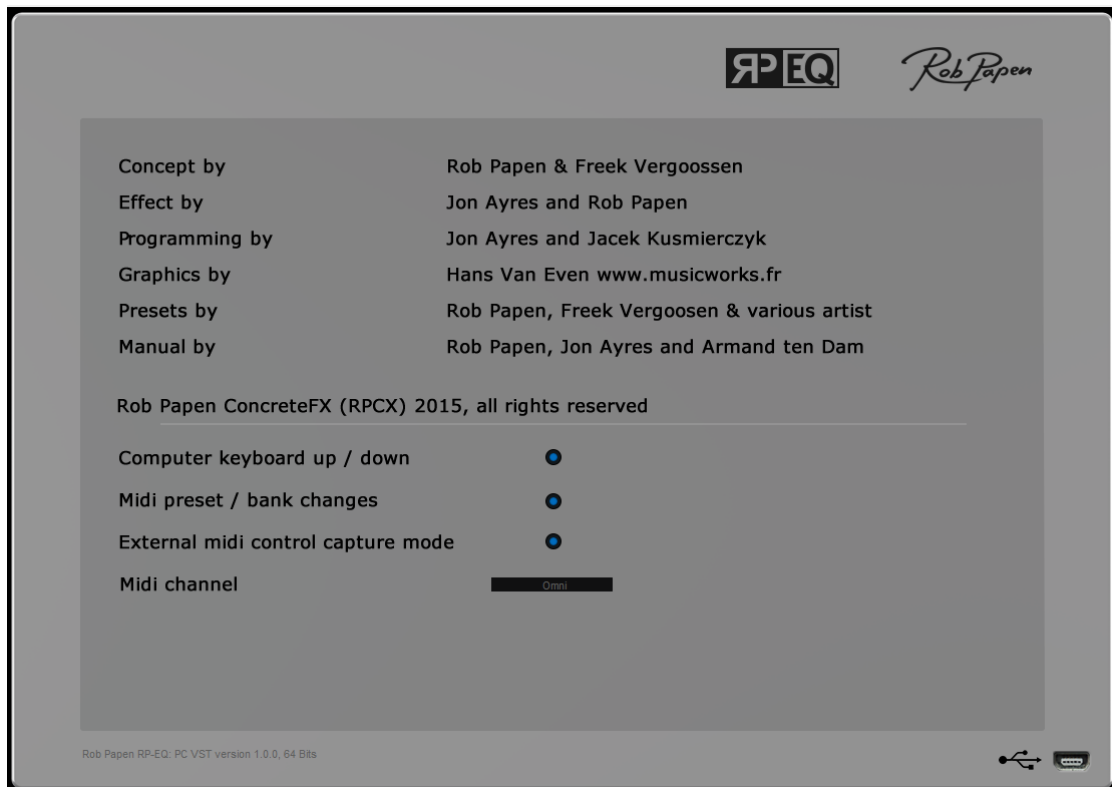
Visual (ビジュアル)

スイッチをオンにすると、スペクトログラムはグレーのモノラル信号を表示します。

Mode (モード)

モードの設定は、ステレオ信号をモノラル信号に変換する方法を決定します。ここで選択できるオプションは次の通りです: Left Channel (左チャンネル)、Right Channel (右チャンネル)、左と右チャンネルの平均の和 (L+R)、及び 2 つのチャンネル間の信号差 (L-R)。

バックパネル



RP-EQ ログをクリックすると、バックパネルが表示されます。バックパネルには、プログラム情報と、多くのグローバル設定が含まれています。これらの設定は、RP-EQ のすべてのインスタンスに影響します。ここでの設定は、一度だけ設定を必要とするものです。つまり、プラグインをインストールした後、一度だけ設定を行ってください。これらは、初期設定の集合とを考えてください。

Computer Keyboard On/Off(コンピューターキーボードのオン/オフ)

キーボードオン/オフスイッチは、コンピューターキーボードによるプリセットとバンクのナビゲート操作を切り替えます。キーの割り当ては以下のとおりです。

上矢印ボタン	前のプリセット
下矢印ボタン	次のプリセット
左矢印ボタン	プリセット番号を 32 減らします
右矢印ボタン	プリセット番号を 32 増やします
ページアップ	前の RP-EQ バンク
ページダウン	次の RP-EQ バンク

MIDI Program / Bank Change (MIDI プログラム / バンクチェンジ)

プログラム / バンクチェンジ・スイッチは、バンクやプリセットを選択する、MIDI バンクセレクトと MIDI プログラムチェンジ・コマンドの受信を可能にします。このスイッチがオフの場合、RP-EQ は MIDI プログラムチェンジとバンクセレクト・コマンドを無視します。

External Midi Control Capture Mode (外部 MIDI コントロール・キャプチャーモード)

Capture Mode スイッチが有効の場合には、MIDI コントローラーの値が RP-EQ パラメーターの値に一致するまで、RP-EQ パラメーターに関連付けられた、MIDI コントローラーメッセージ入力を無視します。これは、関連付けられた外部 MIDI コントローラーに触れると、パラメーター値の急激なジャンプが発生する可能性を防ぐために役立ちます。

Midi Channel (MIDI チャンネル)

MIDI チャンネルの設定は、RP-EQ の MIDI コントロールを特定の MIDI チャンネル(1~16)に制限します。また、Omni(オムニ)モードでは、全チャンネルで MIDI メッセージに応答します。